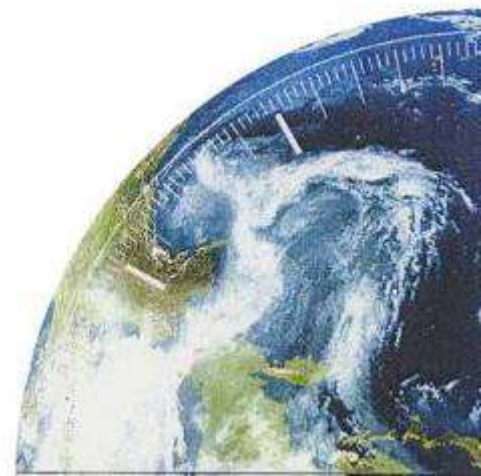


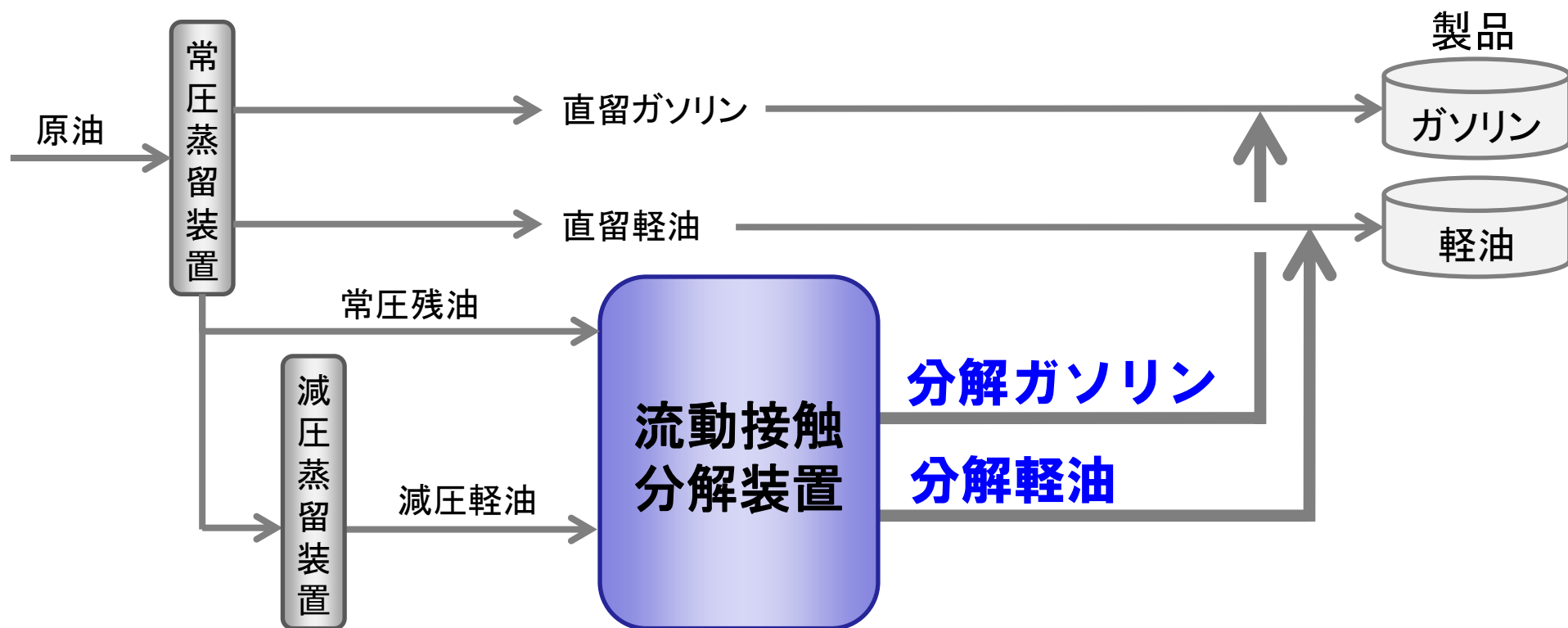
# 次期自動車・燃料研究について

2015年3月9日

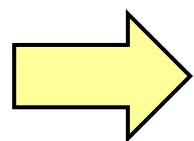
自動車・新燃料部  
脇田 光明



# 分解系留分の自動車用燃料利用の必要性



重質油分解装置の装備率の更なる向上により、分解系留分(ガソリン、軽油)が増加すると想定される。



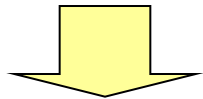
石油の有効利用の手段として、分解系留分の自動車燃料としての利用拡大は避けられない。

# 経済産業省より事業の公募

## ■ 『石油利用低炭素化分析評価事業』

目的:

- 石油精製における残油の分解等で得られる留分について、自動車燃料としての利用用途の拡大を図る。



- 結果、原油から得られる各留分を余すことなく活用することにより、国内需要を満たす石油製品を生産するために必要な原油処理量を削減し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に寄与する。

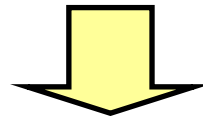
予算規模:

- 3.7億円(補助金)

# 経済産業省より事業の公募

## ■ JPECの対応

- 分解軽油は、JATOP II 事業を通じて明らかになった技術課題への対応が、さらに必要である。
- 分解ガソリンについては、混合増による燃料性状の変化がガソリン車の各種性能に及ぼす影響を把握し、既販車に不具合を生じさせないための技術的知見を得る必要がある。



JPECとしては、分解系留分の自動車燃料利用における技術的課題に対する検討を今後も進めたい考えです。

そのための手段として、経済産業省の公募に対して応募しています。

JPECからの説明は以上です。